

< 認知症対応型共同生活介護用

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300526
法人名	有限会社 鹿屋介護サービスセンター
事業所名	グループホーム ゆうきの里
訪問調査日	平成 20 年 9 月 24 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 9月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300526
法人名	有限会社 鹿屋介護サービスセンター
事業所名	グループホーム ゆうきの里
所在地	鹿児島県鹿屋市菟川5204-3 (電話) 0994-40-3151

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年9月24日 評価確定日 平成2010月27日

【情報提供票より】(20 9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り 1 階建ての 1 階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	光熱費	9,000 円	
敷金		その他の経費(月額)	実費	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	- 円
または1日当たり 800 円				

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.5 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	池田病院 大隅鹿屋病院 小濱病院 辻畑歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームゆうきの里は、緑の山々・田園に囲まれ自然豊かな環境にある。居間・廊下は、広々しており、雨の日も室内の歩行ができ、筋力低下の予防に役立っている。今回の自己評価は、現在の取り組みに満足することなく、より一層の取り組みに努めたいという、職員の気持ちが伺える評価である。職員の中に看護師が4人おり、医療面の処置がいきとどき、利用者や家族が、安心して居るグループホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の外部評価について報告しているが、継続して改善に取り組んでいない。改善シート等を活用し、職員全員で、具体的・継続的に改善に取り組むことを期待します。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今年の自己評価は、ミーティング時に職員から意見を聞いて、管理者がまとめ上げている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内会長・民生委員・消防団員・家族等が参加して、平成18年8月より2ヶ月毎に開催している。開催することにより、利用者の様子を知ってもらい、地域との連携を取れるようになった。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回、行事の前に家族会を開催して、意見・要望を聞く機会を設けている。面会時にも、要望がないか家族に聞いている。家族からの意見・要望は、申し送りノートに記入して、職員は、共有している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入している。運動会・グランドゴルフ・除草作業に参加し、事業所の夏祭りに、近隣の方々を招待して、交流に勤めている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有			詳細		
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時から「尊厳」という理念にそって職員は、サービスの実践をしている。地域密着型サービスとしての理念をつくりあげていない。		地域密着型サービスの理念を職員と話し合い、事業所独自の理念を作り上げることを期待します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールに掲示し、職員は、朝の申し送り時に唱和して「尊厳」という理念の実践に、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。運動会・グランドゴルフ・除草作業に参加し、事業所の夏祭りに、近隣の方を招待して、交流に勤めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は、自己評価・外部評価を実施する意義の理解はしている。昨年の外部評価について報告しているが、継続して改善に取り組んでいない。今年自己評価は、ミーティング時に職員から意見を聞いて、管理者がまとめ上げている。		外部評価は、改善シート等を活用し、職員全員で、具体的に、継続的に改善に取り組むことを期待します。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・民生委員・消防団員・家族等が参加して、平成18年8月より2ヶ月毎に開催している。開催することにより、利用者の様子を知ってもらい、地域との連携を取れるようになった		

鹿児島県 グループホーム ゆうきの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者に、事業所の相談ごとと一緒に取り組んでもらったり、夏祭りに参加してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に、健康状態や日々の様子を報告している。緊急時は、電話で報告している。年4回「ゆうきの里新聞」を発行し、行事の様子などを報告している。金銭出納帳は、家族に報告しサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、行事の前に家族会を開催して、意見・要望を聞く機会を設けている。面会時にも、要望がないか家族に聞いている。家族からの意見・要望は、申し送りノートに記入して、職員は、共有している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、利用者は馴染みの職員の支援を受けられている。入職時には、新人マニュアルを作成しており、担当者を決めて教育し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、外部研修に交替で参加して、研修報告書を書き、職員会議で発表し職員間での共有は、できている。内部研修では、転倒時・発作時などの対応の仕方など勉強会をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿屋地区の勉強会や催し物に参加している。近くのグループホームと利用者と一緒にお茶を飲んだりなどの交流はあるが、職員同士の相互訪問などはしていない。		職員の地域の同業者との相互訪問などの機会を作り、日々のサービスや職員の育成に役立つ交流を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービスを利用する前に、家族と見学に来られたり、体験入所も可能である。利用者・家族にどのように生活したいか話しを聞き、徐々に馴染んでもらえるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、野菜・梅干・ラッキョウ漬け・団子など、利用者に教わりながら一緒に作り、喜怒哀楽を共にし、お互い支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所時のアセスメントや、本人との会話の中から思いや意向の把握に努めている。家族からも面会時などに意向を聞いている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケース会議で、職員の意見を出し合い、病院受診に行ったときに、主治医からの意見を聞き、家族からも意向を聞き、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、3ヶ月ごとに見直しをしている。対応できない変化が生じた場合は、その都度見直し現状に即した新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望があれば、通院介助の支援をしている。医療処置を受けながらの生活の支援・お墓参りや外出の支援など、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医となっている。家族が病院へいけない時は、職員が対応し、家族への報告をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、家族も病院を希望しており対応していない。重度化したり、急変時に対応できるように、職員は勉強会をして、方針が統一している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時にプライバシー(守秘義務)について、契約書を交わしている。損ねるような言葉賭けをしないように、話しているが、プライバシーについて勉強会は、していない。		内部研修に計画され、記録物の取り扱いや個人情報の取り扱いなど、秘密保持の徹底を図ることを望みます。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は、時間は決めているが、利用者のペースで応じている。散歩・買い物についても、したい時にできるように努めている。外出傾向にある人には、見守りながら一緒にしている。		

鹿児島県 グループホーム ゆうきの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ・下膳・テーブル拭き・食器洗いなど、利用者の力量に応じて職員と一緒にしている。外食の希望があり、2～3ヶ月に一回出かけている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、希望すればいつでも可能である。拒む人は、少ないが、声かけに工夫して入浴できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ・皿洗い・草取りなど利用者の力量に合わせて役割をしてもらっている。ドライブ・花見・レクリエーション・カラオケなど楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	墓参り・花見・ドライブに出かけたり、事業所の敷地内でテーブルを出して昼の食事をしたり、散歩をしたりと、戸外に出かけられる支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関に鍵をかけていない。外出傾向にある方の行動を把握しており、職員は一緒に出かけている。近隣の方々に、外出傾向のことを理解してもらい、声かけの協力を得られるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下に、年2回夜間想定避難訓練を行っている。地震想定訓練は、行っていない。非常食・飲料水の準備はしていない。		夜間・地震想定自主訓練を毎月でも重ねられ、職員が自信をもって誘導できるように期待します。飲料水・非常食の備蓄をすることを勧めます。

鹿児島県 グループホーム ゆうきの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は、記録している。刻み食・おかゆ・ゼリーなど利用者の状態に応じて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は、天井が高く、広々としている。大きな窓があり、ソファに座って外の四季折々の景色を眺めることができる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にトイレ・洗面所が付いている。布団・テレビ・イス・タンスが持ち込まれ、写真や飾り物が壁に飾られたりぬいぐるみが置いてあるなど、利用者の個性のある部屋ができています。		